

# 産業建設常任委員会視察報告書

平成30年11月6日

## 1 視察日、視察先、事項

11月1日（木） 愛知県大府市  
健耕サポーター事業について

## 2 参加委員

中村博行委員長、岡山明副委員長、奥良秀委員、河崎平男委員、水津治委員  
中岡英二委員、藤岡修美委員、

## 3 報告事項

愛知県大府市  
健耕サポーター事業について

### 【視察の目的】

当市の農業の活性化を推進するための先進地視察

### 【大府市の概況】

愛知県の西部、知多半島の根幹部に位置し、名古屋の衛星都市として発展してきた。昭和36年愛知用水が通水し、農業のみならず工業も発展。平地は水田や自動車関連等の工業地帯をなし、丘陵部は住宅地、ブドウ・梨等の果樹、山の芋、キャベツ、玉ねぎ等の露地野菜栽培が盛ん。

市内の耕地の占める割合は23%

人口92,232人、世帯数38,882世帯、面積33.66Km<sup>2</sup> 平成30年9月30日現在

### 【視察先の現状と課題】

- 1、農業従事者の高齢化
- 2、耕作放棄地の増加
- 3、大府市農業の主要課題

### 【健耕サポーター制度に至る経緯】

◎農業を活性化する具体的計画の策定指示

平成13年度から農業委員会において、土地改良圃場区域内を対象とした遊休農地調査及び農地意向調査を実施した。順調に遊休農地の解消につながらない等の課題を抱え、平成18年度の理事者協議会において、平成19年度に懇話会を設置し、今後の大府市の農業の方向性や農業を活性化する具体的計画の策定の指示を受ける。

◎大府市都市農業懇話会の設置 ⇒ 『おおぶ「農」活性化プランの策定』

平成19年7月18日に大府市都市農業懇話会を設置し、10回懇話会の議論により『おおぶ「農」活性化プラン』を作成され、平成21年2月に懇話会より、市長へ提言を受ける。

◎若手職員による耕作放棄地対策プロジェクト

主要課題である耕作放棄地対策について検討を行う職員によるプロジェクト会議

を平成 21 年 9 月 8 日に設置し、議論の結果、市民と農家と行政のパートナーシップによる農業サポーター（健康都市である大府市に因んで、『健耕サポーター制度』と命名）を提案し、平成 22 年度実施に向けた準備を開始。

◎健耕サポーター制度の開始H22 年度へ

【健耕サポーター制度の目的】

- 農家と市民との交流促進
- 農を通じた市民への生きがい、健康づくりの場の提供
- 農家への農作業労働力の提供
- 栽培技術や経験の伝承
- 農地を貸し借りしやすい信頼関係づくり
- 農業に興味のある方へのきっかけづくり
- 市民力を活用した耕作放棄地の活用

【サポーター実績】

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
受入農家戸数	15	18	19	26	28	28	30	32
サポーター数	27	31	51	64	91	100	105	111
述べ参加者数	80	181	514	644	680	652	538	588

サポーターの効果

- ・新規就農 23年度 1名、25年度 1名
- ・耕作放棄地の発生抑制

サポーターの課題

- ・年々増加しているが、活動を継続している人は、限定的である

4 考察

当市においても、耕作放棄地が年々増加している。農業従事者の高齢化、有害鳥獣による被害等が要因とされている。

耕作放棄地対策として、担い手の育成、農地の集積・集約化、新規就農者の受け入れ、有害鳥獣対策等に取り組んでいるが、あまり効果が上がっていない。

先日施設野菜農家の方から、繁忙時期にアルバイトが出来る高校生がいないでしょうかと問い合わせがあった。市内に必要とされている農家がおられる。

農業に興味のある方が市内の農家で農畜産物の生育に関わり、農業の知識・技術を習得し耕作放棄地を活用して農産物を育てることが、地産地消の推進及び特産品のPR、また新規就農に繋がる効果が考えられる。